#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号: 25201 研究種目: 若手研究(B) 研究期間: 2013~2019

課題番号: 25862237

研究課題名(和文)精神障がい者の就労を促進する農福 " 医 "連携の構築

研究課題名(英文) Construction of agricultural and welfare and medical cooperation to promote employment of people with mental disabilities

### 研究代表者

松谷 ひろみ (Matsutani, Hiromi)

島根県立大学・看護栄養学部・助教

研究者番号:10642655

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文):本研究では精神障がい者の園芸・農作業を通して育まれた就労に関するエンパワメントを明らかにし、農福"医"連携モデルの作成に向け支援者の効果的な関わりを検討した。『 自己効力感が高められること』『 将来起こりうることが予期できること』等の3点が就労に向かうために必要な核であり、『(a)自分のできる部分・できない部分を認める』『(b)疾患に対する自分なりの対処行動を習得する』等の5点が就労を継続するために必要な核であった。就労に向かう前段階の支援、農業分野で就労継続するための支援、疾病管理の支援等において8点の核を意識した関わりが必要である。そして農福"医"モデルの構築をさらに進 めていく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究における精神障がい者の園芸・農作業を通して育まれた就労に関するエンパワメントの明確化は,パワ・ 労継続につながることが期待される。

研究成果の概要(英文): The purpose of this study is to clarify the empowerment of working for people with mental disabilities who have been nurtured through horticulture and agricultural work. And we examined the effective involvement of supporters toward the creation of a model for agricultural and welfare and medical collaboration. Three elements such as "(1) enhancing self-efficacy" and "(2) what can happen in the future can be expected" are the cores necessary for working. Five elements such as "(a) recognize what you can and cannot do" and "(b) mastering coping behavior for the disease" were the cores necessary to continue working. It is necessary to be involved in eight core elements in support in the pre-employment stage, support for continuing work in the agricultural field, and support for disease management. It is necessary to further promote the construction of the agricultural and welfare and medical

model.

研究分野: 精神看護学

キーワード: 精神障がい者 エンパワメント 農福連携

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様 式 C-19, F-19-1, Z-19(共通)

### 1.研究開始当初の背景

わが国では,心や身体に何らかの問題を抱える障がい者は増加傾向にある。平成20年には精神障がい者は323万3千人となっており(内閣府,2011),医療・生活面の支援に係る体制の整備が進められている。15~64歳未満の精神障がい者の就業率は17.3%であり,他2障害と比較しても大幅に低く,精神障がい者の就業が十分に進んでいないことがわかる(厚生労働省,2009)。その理由としては,精神障がい者は疾患と障害が共存しているという特性を持つために病状が安定しにくいこと,精神障がい者の雇用の義務化が行われていないこと,精神障がい者への理解不足などが挙げられる。その中でも病状が安定しにくいために,就労に結びつきにくく,また就労しても継続できないケースが多くみられ,精神障がい者の就労支援には,就労と疾患管理との両立を支援していく必要がある。

近年,障がい者の就労に関しては,福祉と農業を結びつける「農福連携」が国を挙げて取り組まれ始めている。しかし,受け入れ側の農家からは,精神障がい者とどのように関ればよいかわからない,どのような作業をしてもらえばよいかわからないといった声も上がっている。「農業分野における障がい者就労マニュアル」,ジョブコーチ(就労適応援助者)制度などにより,作業への指導方法や関わり方の指導が農家へ行われているが,そこに医療関係の職員が介入することはほとんどない。精神障がい者の生活支援や 就労支援に関わる福祉分野,農業分野,そして医療分野が専門性を 活かしながら効果的に連携していくことで,精神障がい者がその人らしく地域で生活をしていく事ができると考えられ,農福連携に"医"が介入していくことは,精神障がい者の就労継続のためには 重要性であると考えられる。

現在,申請者は精神障がい者が園芸作業や農業を通して得る癒しの効果と就労につながる力の高まりについての研究を行っている。和田(2011)は,入院中の精神疾患患者の園芸作業による気分の変化についてフェイススケールを用いて調査した結果,短時間の園芸作業を通じて対象者はリラックス効果を得ていたと報告している。申請者らがフェイススケールを用いて入院中の精神疾患患者の朝顔栽培への参加継続群と非継続群の気分の変化を比較した結果,継続群は"気分の安定に効果的な群"であることが明らかとなった。継続群より得られたデータから参加継続要因を検討した。また,園芸作業を通して,自分のできる力を認識することができた対象者もおり,園芸作業が「エンパワメント」を促進させる可能性も示唆された(松谷,2012)。園芸作業がエンパワメントを促進させる要因には,植物とのふれあい,作業工程,他の参加者との関わりなどが関係していると考えられるが,精神障がい者の園芸作業および農作業によるエンパワメントや,エンパワメントを促進させる周囲の者の関わりについて検証していく必要があると考えられる。

### 2.研究の目的

本研究の目的は,精神障がい者が園芸作業および農作業を通して育まれた就労に関するエンパワメントを明らかにし,農福"医"連携モデルの作成に向けて,支援者の効果的な関わり方について検討することである。

### 3.研究の方法

### (1) 用語の定義

エンパワメント

エンパワメントは,対象者が,自分のもつ力に気づき,その力を発揮して,生活を自己決定しながら調整していくプロセスである。その評価には,「結果をみる」とするものと,「プロセスをみる」とするものがある。本研究におけるエンパワメントは,園芸作業を通してエンパワメントした結果,変化のあった精神障がい者の個人レベルの内的な感覚と行動の成果を指す。

## (2)研究1

研究対象者

精神科病院に入院中である社会復帰に向けた対象となり得る精神障がい者のうち,病棟看護師や主治医と相談の上,精神症状が落ち着いている者を選定した。そして,病棟看護師から研究者へ対象者として紹介することに本人が納得し,説明により同意を得られた6名を対象とした。 園芸栽培の概要

A 県農業技術センターにより障がい者向けに作業工程を簡便にする工夫を加えられた園芸作業プログラムによる,朝顔栽培を行った(図1)。対象者は,1人1鉢の朝顔の栽培をし,種まき

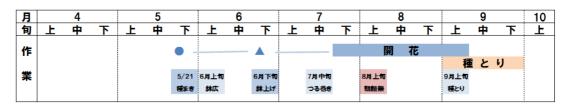


図1 園芸作業プログラムの概要

から種の収穫まですべての工程を体験した。研究協力者およびその他スタッフが,対象者の園芸作業を支援し,それ以外の栽培管理(水やり等の日々の世話)は,病院スタッフが中心となって対象者の栽培管理を支援した。

### 調査内容・分析方法

すべての園芸作業が終了した後に,研究対象者へ半構成的にインタビューを実施した。園芸作業に継続して参加した経過を振り返りながら,「朝顔栽培をして良かった点,関心を持った点」,「半年間,この取り組みが続けられた要因」,自分ができるようになった点や成長したと思う点」などを中心に質問し,対象者に自由に語ってもらった。1回のインタビュー時間は30分とし,インタビュー内容は承諾を得てICレコーダーに録音した。データの分析には,ベレルソンの内容分析を用いてカテゴリ化を進め,カテゴリ,サブカテゴリ毎の記録単位数を算出した。

## (3)研究2

#### 研究対象者

就労継続支援 B 型事業所において農作業に継続して参加している精神障がい者のうち,施設管理者から研究者へ対象者として紹介することに本人が納得し,説明により同意を得られた 14 名とした。

### 調査内容・分析方法

研究対象者へ半構成的インタビューを実施し、「就労の場において農作業をする中で自分にどんな力がついたと感じるか」などについて自由に語ってもらった。分析方法は、インタビュー内容を逐語録とし、農作業を通して育まれた就労継続につながるエンパワメントに関する語りを抽出した後、内容の類似性と相違性に留意してカテゴリを抽出した。

### 4. 研究成果

### (1)研究1

研究対象者は男性 1 名,女性 5 名の計 6 名であった。年齢は 63~80 歳(平均年齢 69.0±5.74歳),入院期間は 1~37 年であった。インタビュー時間は 18~32 分(平均時間 21 分 33 秒)であった。

対象者 6 名の回答は,72 記録単位,6 文脈単位に分割された。72 記録単位を意味内容の類似性に基づき分類した結果,園芸作業を通して育まれた入院中の精神障がい者の就労につながるエンパワメントの成果を表す16 サブカテゴリ,3 カテゴリが形成された(表1)3つの中核となるカテゴリの中で『自己効力感の高まり』が全記録単位の52.8%,『将来起こりうることが予期できる』が26.4%,『他者へ関心が向く』が20.8%であった。『自己効力感の高まり』は【やりがい】、【満足感】、【責任感】、【心が穏やかになる】、【希望を抱く】、【コントロール感】、【次の課題を見出す】、【自己成長】、【自分の力の認識】の9サブカテゴリ,『将来起こりうることが予期できる』は【成長への期待】、【予期不安】、【関心が湧く】の3カテゴリ,『他者へ関心が向く』は【他者との協働感】、【他者との一体感】、【他者とのコミュニケーション増加】、【他者からの評価を求める】の4カテゴリから形成された。

表1 園芸作業を通して育まれた精神障がい者の就労につながるエンパワメントの成果を表す カテゴリ・サブカテゴリと記録単位数

カテコッ・サフカテコッと記		総記録単	单位数 72		
カテゴリ		录単位数 (%)	サブカテゴリ		录単位数 (%)
			やりがい	7	(9.7)
			満足感	6	(8.3)
			責任感	5	(6.9)
			心が穏やかになる	5	(6.9)
自己効力感の高まり	38	(52.8)	希望を抱く	5	(6.9)
			コントロール感	3	(4.2)
			次の課題を見出す	3	(4.2)
			自己成長	2	(2.8)
			自分の力の認識	2	(2.8)
仮立扫 = りるステ しが			成長への期待	8	(11.1)
将来起こりうることが	19	(26.4)	予期不安	7	(9.7)
予期できる			関心が湧く	4	(5.6)
	15 (20.8)	(20.8)	他者との協働感	5	(6.9)
w 老 - 脚 2 ぶ白ノ			他者との一体感	4	(5.6)
他者へ関心が向く			他者とのコミュニケーション増加	4	(5.6)
			他者からの評価を求める	2	(2.8)

3 つのカテゴリは園芸作業を通して育まれた入院中の精神障がい者の就労につながるエンパワメントの成果の中核となるものであると考えられた。精神障がい者は園芸作業を通して自己効力感が高まることで,就労への準備性も高まる可能性が示唆された。また,現実的なイメージが持ちやすいために作業の継続につながりやすいこと,他者のできる力の発見,そして自己の開放性の高まりなどにつながっていると考えられた。

精神障がい者に関わる看護者を含む医療・福祉スタッフは,精神障がい者が,自分自身の力で自分をエンパワメントすることができる存在であるということを認識して関わっていく事が求められる。それとともに,医療・福祉スタッフは園芸作業を通して育まれた就労につながるエンパワメントの成果の中核となる『自己効力感の高まり』,『将来起こりうることが予期できる』,『他者へ関心が向く』の3点を意識しながら,精神障がい者の就労につながるエンパワメントを促進する支援をしていくことが望まれる。

### (2)研究2

研究対象者は男性 11 名,女性 2 名の計 13 名であり,平均年齢 40.31 ± 9.40 歳であった。疾患名は統合失調症 6 名が最も多かった。平均事業所利用月数 22.8 ± 15.56 月で,全員過去に就労経験があった。

分析の結果,131 コード,11 サブカテゴリが抽出され,「前に向かう意欲を持つ」「自分のありのままを受け入れる」「他者を仕事仲間として認める」「働く者としての意識を持つ」「自分なりの対処行動を取得する」の5カテゴリに集約された(表2)。

表2 農作業を通して育まれた精神障がい者の就労継続につながるエン	゚パワメント
----------------------------------	--------

カテゴリ	サブカテゴリ	
	農作業を通じた喜びを得る	
前に向かう意欲をもつ	農作業の中でやりがいを見出す	
	一歩踏み出す力が出る	
自分のありのままを	できる自分に気づき認める	
受け入れる	今の自分を自然に受け入れる	
他者を仕事仲間として	自分の居場所として認識できる	
認める	他者を仕事仲間として認識する	
働く者としての意識を持つ	自分のやるべきことに取り組むことができる	
側へ有としての息畝を持ち	先を見据え広い視野を持つ	
自分なりの対処行動を	病気との付き合い方を習得する	
習得する	自分の認知の切り替えができる	

就労継続支援 B 型事業所にて農作業に取り組む精神障がい者は , 農作物が成長すること・人に食べてもらえることでの喜びや自身のやりがいを得る , 農作業に付随した作業工程の中で得意な作業を見出す , 難しい作業の中に面白さを見出すといった , 農作業の一連の流れの中で < 前に向かう意欲をもつ > ことを育んでいたことが本研究の特徴的な結果であった。 農作業の「場」を活かし , 精神障がい者が精神症状と上手く付き合いながら , 自身の力を発揮し , 希望や意欲を持って就労していけるように医療者としてどのように支援していけるか検討していくことが求められる。

## (3) 農福連携において従事する精神障がい者への支援者の効果的なかかわり方への示唆

今までの園芸作業・農作業を通して育まれた精神障がい者のエンパワメントに関する研究結 果から ,『(1)自己効力感が高められること』『(2)将来起こりうることが予期できること』『(3)他 者へ関心が向くこと』の 3 点が精神障がい者の就労に向かうために必要となる核であると考え られた。また、『(a)自分のできる部分・できない部分を認める』『(b)疾患に対する自分なりの対 処行動を習得する』『(c)働く者としての自負をもつ』『(d)前に向かう意欲をもつ』『(e)他者を仕 事仲間として認識する』の 5 点が精神障がい者の就労を継続するために必要となる核であると 考えられた。以上の結果を基礎資料とし , 農福 " 医 " 連携モデル案作成に向けての効果的なかか わり方について検討した。まず,精神障がい者が就労に向かう前段階の支援として,病院入院中 または地域で支援サービスを受けている時点から『(1)自己効力感が高められること』『(2)将来 起こりうることが予期できること』『(3)他者へ関心が向くこと』を意識した支援を医療分野の看 護職が行っていくことが求められると考えた。また ,農業分野で就労を継続していくための支援 として,その人の強みに着目し仕事をするための生活を整えていくために『(a)自分のできる部 分・できない部分を認める』『(c)働く者としての自負をもつ』『(d)前に向かう意欲をもつ』『(e) 他者を仕事仲間として認識する』を意識した支援を農業分野,福祉分野,医療分野が共通認識を して行っていくこと,そして疾患管理のための支援として『(b)疾患に対する自分なりの対処行 動を習得する』を医療分野の看護職が行うとともに ,福祉分野 ,農業分野へ情報提供していくこ とが求められる。これらの検討結果を,農福"医"連携モデル作成に反映し,今後の研究におい て,農福 "医"モデルの構築をさらに進めていく予定である。

### < 引用文献 >

- 独立行政法人農業食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 (2009): 農業分野における障害者 就労マニュアル, 平成 20 年度農村生活総合調査研究事業報告書.
- 内閣府 (2011): 障害者白書平成 23 年版,
  - http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h24hakusho/zenbun/pdf/h1/2\_1.pdf(2019.9.14 参照).
- 厚生労働省(2008): 身体障害者,知的障害者および精神障がい者就業実態調査の結果について, http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/01/dl/h0118-2a.pdf(2019.9.14 参照).
- 松谷ひろみ,石橋照子(2017): 園芸作業を通して育まれた精神疾患患者の就労につながるエンパワメント,日本医学看護学教育学会誌,26(2),14-20.
- 和田由佳,石橋照子,神門卓巳他(2011):精神科病院における朝顔栽培の取り組みとその効果, 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要,6,33-4.

#### 5 . 主な発表論文等

「雑誌論文 〕 計2件(うち査請付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件)

[雑誌論文] 計2件(うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件)	
1.著者名	4 . 巻
松谷ひろみ	26-2
2.論文標題	5 . 発行年
園芸作業を通して育まれた精神疾患患者の就労につながるエンパワメント	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本医学看護学教育学会誌	39-45
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
松谷ひろみ,石橋照子	7
2.論文標題	5 . 発行年
特別広島県本のエンパロースンルト国共佐光への地域会和の間接	
精神疾患患者のエンパワーメントと園芸作業への継続参加の関係	2014年
	•
精神疾患患者のエフバソーテントと園去1F業への継続参加の関係 3.雑誌名	2014年 6.最初と最後の頁
	•
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3.雑誌名 島根看護学術集会論文集	6 . 最初と最後の頁 37-39
3.雑誌名	6.最初と最後の頁

国際共著

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1.発表者名

オープンアクセス

松谷ひろみ、石橋照子

2 . 発表標題

労継続支援B型事業所での農作業を通して育まれた精神疾患患者の就労継続につながるエンパワメント

オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

3 . 学会等名

第30回日本医学看護学教育学会学術集会

4 . 発表年

2020年

1.発表者名

松谷ひろみ,石橋照子

2 . 発表標題

精神疾患患者のエンパワーメントと園芸作業への継続参加の関係

3 . 学会等名

第7回島根看護学術集会

4.発表年

2013年

# 〔図書〕 計0件

# 〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6.研究組織

0	. 饥九組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考